

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会
CISPR I 作業班（第 3 回）議事要旨案

- 1 開催日時：平成 25 年 3 月 28 日（木） 10 時 00 分～11 時 50 分
- 2 開催場所：経済産業省別館 11 階 1107 号会議室
- 3 出席者（順不同・敬称略）

【構成員】 兩宮主任 (NTT-AT)、堀主任代理 (ソニー)、青谷構成員 (CIAJ)、秋山構成員 (NTT)、長部構成員 (VLAC) 黒沼構成員 (協立電子)、小松崎構成員 (パナソニック)、篠塚構成員 (NICT)、醍醐構成員 (JBMIA)、垂澤構成員 (NTT ドコモ)、千代島構成員 (PFU)、中野構成員 (JEMA)、沼田構成員 (TBS ラジオ)、羽田構成員 (JQA)、廣瀬構成員 (JEITA)、牧本構成員 (JQA)、松田構成員 (JEITA)、村上構成員 (JET)、

【事務局】 丸尾、臼井、黒田、下谷 (総務省)

4 議事概要

(1) 事務局から配付資料の確認が行われた。また、今回 JET の川田構成員から村上構成員に、TBS テレビの深澤構成員から TBS ラジオの沼田構成員に交代となったことが紹介された。

(2) 資料 3—1 前回議事要旨案について、修正意見等あれば 1 週間以内に事務局まで連絡することで承認された。

(3) 資料 3—2 CISPR32 国内規格答申の提案について (案) について、兩宮主任から説明があり、案に沿って CISPR32 国内答申作成のためのアドホックグループを設置することが決まった。また、設置及び開催に際しては主任と調整の上事務局より追って連絡することとなった。

(4) 資料 3—3 CISPR/I/WG2 シドニー会議結果報告 (案) について、千代島構成員から説明があり、以下の議論があった。

○黒沼構成員：WG4 との調整の議題の中で、共通定義について CISPR32 と 35 を一つにするとあるが、これはどういうことか。

千代島構成員：CISPR32 と 35 の共通で持っている定義を改訂するときに、一方の規格の改訂だけ進むと、片方の定義が古い状態が続く恐れがあるため、一つにしてしまっはどうかという案である。

兩宮 主任：本件の実現性は低いものと思われる。

○羽田構成員：不確かさの完全適用について反対多数となり CDV から削除されたとなっているが、議長が別に CDV を発行するとなっていることについて、CISPR13

amd. 1 は CISPR32 の結果を入れ込むことになっていたのですが、それに伴い発行が遅れるということになるのか。

雨宮 主任：そういうことになるだろう。

堀主任代理：2年前の総会で不確かさに関する文章を規格に入れることが決まっているが、採用するか否かは各 SC に任されている。

(5) 資料 3-4 CISPR/I/WG4 シドニー会議結果報告(案)について、青谷構成員から提案説明があり、特に異議なく承認された。

○羽田構成員：今後の課題の中で Pike 委員の提案として、新しい通信設備が出来るため放送受信設備についても対応した試験を行えという内容のようだが、本来、新しい無線通信設備を割り当てる場合、ITU-R で既存の放送設備に影響を与えない観点から周波数を割り当てるはずなので、放送受信設備側から対応を始めるのではなく、通信機側が妨害を与えないように設備を作ることが本来の流れであり、この提案について取扱いを考える必要があるのではないか。

青谷構成員：DC 文書が出てきた場合は、そういった意見を述べていく必要がある。

(6) 次回会合は未定。

以上